

意ヶ丘

〈発行〉平成15年12月18日



伏木商業学校校舎と校旗

と、毎年依頼され、今年も苦手で、今回も目らせてしまいました。前回は「楽しき自分たち北高第3編みてところ、編いすねとクレ長の鶴谷久男(故一献盃を交わすた国語の先生が文書を書くの願ひしてちゃんのだ)」と明かされておられました。が、私にはそれまいます。出かけますので、いてみます。先

ず気がつくのは非常に礼儀正しいことです。自分たちが高校生の頃に、外部の人にあいさつなどしていたかなと反省させられます。服装も気になるような生徒たちは見当たりません。強いて言えば、平均的に気力が感じられないことでしょうか。ただし、部活に参加している生徒たちは違います。例えば、私は一方で赤十字奉仕団の団員をやっていますが、昨年、青少年赤十字「JRC」が母校伏木高校で発足しました。ここに参加している生徒たちは、12月の「NHK海外たすけあい募金」などで大いにその実力を発揮しています。自分たちで募金箱やポスターを作り、ショッピングセンターの前で慣れない募金の呼び掛けにも参加し、大いに貢献してくれました。この子たちに、やがては如意ヶ丘同窓会の会員として、また地域社会の担い手としてのたくましさを感じました。

それにつけても、「どうした野球部」「夢よもう一度サッカー部」、多くの同窓生が待ち望んでいるぞと私も叫んで、あいさつに代えさせてもらいます。

ことと存じます。本部、関東支部、出席でき、母校を委員の皆様方とお集り諸氏が各地各々改めて敬意を表し方々から暗黙ですんなり叱咤激励を賜ります。一歩を踏み出しとしてサッカー部や英語選択者のウラ

ジオストク訪問研修を実施致しました。また、他方、本校に県下一円の小・中・高等学校の国際交流関係の資料を収集し、誰でも閲覧できる「国際交流資料館(仮称)」が開設される準備が進められています。これらの一つひとつは、環日本海交流の拠点校をめざす本校の新たな歩みといえます。

歴史ある本校のさらなる飛躍を目指し、教職員、生徒一丸となって取り組んでいます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげ、ごあいさつとします。

二胡の音響く” 如意ヶ丘同窓会総会



や、「輝け富山県民謡大賞ジュニアの部」で優勝した本校生徒の麦や節等の民謡が披露され、会場は雅やかな音色と張りのある歌声に包まれた。同窓会顧問の中尾さんの挨拶と乾杯で始まった懇親会は、終始和やかな雰囲気に進んだ。今年の参加者は、学生や社会人などの若い会員の参加が多く、会場は明るく熱気のある雰囲気に包まれていた。

●●● 関東支部長 清水 正 (商13回卒)

業・高校の校歌を熱唱。続いて米田清治副支部長(高11)の万歳三唱と西井秀子学校長の関東支部への万歳三唱。潮見喜八郎副支部長(高11)の母校へのエール。脇本信廣副支部長(高12)の、来年の再会を約した大々めで別れを惜しみながら、盛会裡にお開きとなりました。なお来賓は上記と山下利一本部副会長(高15)、報道は富山と東京社、富山県人社です。

●支部会則の修正

第7条 副支部長1名を若干名とし、顧問若干名とする。

第15条 会計年度の毎年1月1日から12月31日までを毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

※修正は本部会則と同じにしました。

●新 役 員

支部長	清水 正(商13)	
副支部長	潮見喜八郎(高11)	米田 清治(高11)
	林 尚武(高12)	脇本 信廣(高12)
幹 事	丸山 彩子(高3)	能見 正子(高6)
	白川 慶子(高12)	佐賀 享好(高13)
	四日 哲夫(高15)	
会 計	北山 雅子(高14)	
事務局	山岸 清(高17)	
監 査	川口 直弘(高16)	
顧 問	根木 佐明(商6)	
	泉田 健夫(商10)	
	正和勝之助(商10)	



◎総会で承認された、本年度事業計画の「メルシャン軽井沢美術館及びウイスキー原酒工場見学」を山岸事務局のお世話で、9月18日に無事実施致しました。当日軽井沢は好天に恵まれ、案内役の林副支部長他数名は有名絵画とウイスキー製造工程をゆっくり見学し、楽しい1日を過ごしました。

関西支部長 麦谷 実 (商9回卒)

話題に花咲かせ、ふるさと名産争奪ジャンケン大会で盛り上がるなど、和やかな雰囲気の中、楽しく有意義な一時を過ごしました。懇親会の最後は、伏木商業学校校歌と伏木高等学校校歌を全員で声高らかに合唱し、本元憲明副支部長の閉会の挨拶で幕を閉じました。

●新 役 員

支 部 長	麦谷 実(商9)
副支部長	本元 憲明(高1)
事務局長	高田 昌彦(高6 新任)
幹 事	木中 哲志(高2 新任) 秋常 陽一(高6)
	青木 勝栄(高6) 鶴谷 正昭(高16 新任)
	島田 正人(高17)
会 計	秋元 研三(高1 新任)
会計・監査	奥 誠三(高7)

名称)の由来

。 うち、国際社会で活躍
います。



第15回

富山県高校OB対抗ゴルフ大会

健闘及ばず11位

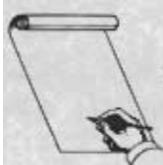
平成15年6月1日(日)、高岡市の高岡カントリー倶楽部に於いて開催されました。今年は大沢野工業と二上工業の2校が加わり、過去最高の34校が参加、各校OB、OG約270人が参加し、雨嵐のなか学校の名誉のためと、はつらつとしたプレイで競い合いました。

この大会は、チャリティーホールが設けられ、ジュニア選手育成のために役立てるという目的も兼ねて行われています。

〈当校出場者〉

田 中	清 (北9)
元 井	聖 剛 (高14)
田 中	清 夫 (高10)
中 山	勝 儀 (高15)
谷 崎	勇 (高12)
佐 野	隆 (高17)
高 井	逸 朗 (高13)
海 老	邦 明 (高23)

上位6人NET. G 463……11位



ンタ !!

酒井 欽 一 (北高4回卒)

ん毎年お盆に帰って来てるのなら、8月14日の伏高の総会に出席して席するのを楽しみにしている。今年は、関東・関西地区から2年先輩畑先輩の挨拶の中で「今の事はすぐ忘れるが、学校の事は良く覚えてた。私たち北高第4回卒業生は、伏木在住の幹事さんたちのお陰でず奈月で開催されたが、私は残念ながら仕事の関係で参加することができず(81歳)と金森先生をお招きして、いつも寝るのを惜しんで語り合っのでこれを書くとも問題になるかも知れないが、私の頭の中の宝物をご生の夏の午後、誰いうともなく昼からの1時間目の授業をボイコットになり、全員国分浜へ。帰ってきたら担任の高井先生が待っていて、白線沿いに一列に並ばされ、説教を食らった。その後一人ひとりにピ室から、窓越しに下級生たちが見ている。「お前たちが可愛いから殴っ。私の心には一生忘れることのできない、今でも懐かしい思い出であ

て殴ったことがある。息子は手を後ろに組み、私のピンタを受けた。許せなかったからである。その時、息子が私に対し、「お父さん、僕はて何だ」とのやりとりがあった。後で、息子が「お父さんのピンタはたことはないよ、先輩たちの方が頭にぐらぐらくるよ」と言っていたも、今では三人の子供の父親として、その責任を全うしている。たまこの話に触れると、息子は、「あの時はやられると思っていたよ」で笑

正しかったと確信している。子供は育てられたように育つし、親が人ういう観点から、ドイツ教育学者の「両親ほどもっとも自然にして、いう、ヨハン・ヘルバルトの考え方が好きである。

しく思われるのは私だけではないだろう。
、今度また会うのを楽しみにしている。

.....

本校教諭 高田 友子 (伏高35回卒)

とのない二人の恩師との出違いがある。一人は陸上競技の投擲が専門技術のみならず、人として生きていく上で大切なことを多方面から教1頃からの先生の教えであり、全国高校総体で念願の優勝を果たしたそげず静かに帰ってきた。陸上競技を通して自己実現させていただいた中に大きな幹となって今も私を支えている。先生は私的な時間の多く家族と先生の間をとったような、何とも心地のよい愛情が師弟の間心から感謝している。

易性だが、多分、学校の近所の方だと思う。高校2年のある日、砲丸一人で黙々とこなしていた。雨足が強くなり、落ちた砲丸が土に埋まこんなことをやっているんだろう。砲丸を人より遠くに飛ばすことにかけになりながら投げていた。そんな私の姿を坂の上からつつかけを履サンがいた。姿が見えなくなったと思って再び投げていたら、いつの傘も差さずにずぶ濡れになりながら、私が投げたドロドロの砲丸をっていれば誰かが見てくれる、応援してくれる、お金では買えなだよ、というようなことをその時オジサンに教えられたようで、そのじりに泣きじゃくりながら投げていたのを今でも鮮明に覚えている。ちの教えを後輩でもある生徒たちに少しでも伝えたいという思いから、標を持つことの大切さ、先生や仲間と考えや価値観を共有することの実は、自分の力不足でなかなか思うような指導ができず悩む毎日であ活は、一度限りだ。タイムリーな指導を心がけ、生徒と共に自分たちそれが私のできる恩師たちへの唯一の恩返しだと思っている。

時代を振り返る 柴田直樹 (伏高52回卒)

伏木高校を卒業してもう4年になろうとしています。伏木高校を選んだのはサッカーがしたいと思ったからでした。今でも高校時代でよく思えばいいです。全国トップクラスを目指しているだけあって練習はきついです。でもか!!って言うくらいよく走ったことを覚えています。私は、小中高が終わり家に着くのはいつも9時過ぎでした。1年生の初めの頃は、3年間やっていけるかととても不安でした。しかし、そんな環境のなかで仲間たちと競い、励まし合いながら練習ができたからです。私は、私はスタンドで応援していたのですが、最後まであきらめない姿勢の選手を見て、絶対レギュラーになるという気持ちを持ち、私自身サッカー部で納得のいく結果を残すことはできませんでしたが、練習するとかといったことをあまり経験することはできませんでしたが、サッカー部に入部してよかったと感じることができました。なぜなら、高い目標を持った友人に出会うことができ、サッカーというスポーツの大切さや、一人だけではできないこともみんなでやればできることが多く、部を通して多くのことを学ぶことができました。他校にはない、海で、勉強や部活動を熱心にできたことは、今の私にとって大きな自

体操部 スポーツエキスパート派遣 元本校教諭 木原勝之

男子団体で2年連続5度目の優勝を果たし、茨城・長崎の全国高校総体。これも同窓会、学校、地域、家庭の温かいご支援とご協力によるもの。先生の指導のもとで体操部が発足しました。当時の校名は高岡北部高校(年度卒)が昭和28年に第8回国体(四国)に出場し、昭和29年には全国に出場して活躍され、体操部は躍進し、確固たるものに成長しました。先生の指導のもと男子団体で初優勝し、全国大会(青森)に出場しました。が大学に進み、めきめき実力をつけ、特にあん馬が優れていて、昭和、大分、福井国体では優勝され、「あん馬の神様」として全国の選手。体操部が一層充実したものになり、男女共に輝かしい成績を取め、た。昭和45年には北信越高校総体(長野)で男子団体で優勝し、上野克しました。全国高校総体(和歌山)では男子団体で予選を通過する活躍に入賞するなど快挙を成し遂げられました。昭和47年には女子団体で初。その後も48年、50年、52年、53年と全国高校総体で活躍しました。として出場し、昭和41年から昭和50年まで多くの部員が活躍しました。体操部の指導に関わり、特に富山県で開催された平成6年全国高校総体。平成12年富山国体に部員とともに参加し、良き思い出となりました。反しながら技を習得し、喜びや達成感を味わい、心身を鍛える。その。社会でいろんな方面で活躍し貢献しておられることを拝見して、大明かりを灯し続けて継続できたのも、部員一人ひとりの情熱と恵まれよりよい練習環境を作り上げて下さった学校の温かい配慮によるもの。統を守り、一層の活躍を期待するものです。



自己実現を支援する進路指導

平成14年度 進路別現役合格者数 (延べ数)

	人数	主な進路先
国公立大学	8名	富山・福井・北陸職能
私立大学	112名	関西外語・関西・近畿・大阪学院・京都産業 中京・明治・専修・駒沢・東洋・帝京 大東文化・福井工業・金沢工業・北陸 金沢星陵・富山国際など
国公立短大	4名	東京都立・大月・岐阜市立女子・高岡
私立短大	51名	神戸女子・武庫川女子・金城・富山など
専門学校	83名	富山医療福祉・金沢リハビリテーションアカデミー 厚生連高岡看護・高岡医師会看護・全沢看護 富山歯科・富山県立技術など
就職	8名	庄川温泉観光ホテル・フレッシュ佐武 三幸株式会社など

三北
回卒高
代表
山産商會
山下和夫

四北
回卒高
代表
スエヒロ
高見健二

四北
回卒高
代表取締役
(株)ホテルウエル
酒井欽一

四北
回卒高
代表
北村書店
北村洋子

全国高等学校総合体育大会出場

体操部部长 藤田純子

体操部は3年生2名、2年1名、1年2名で特別講師の木原先生のもと、毎日練習に励んできました。今年は女子が増え、念願の女子団体を作ることができました。夏に長崎で開催されたインターハイでは団体出場はできませんでしたが、来年こそ団体で出場できるように頑張りたいと思います。そして、これを機に来年、再来年と女子が増え、伏木体操部をどんどん活性化させていきたいと思っています。



全国高等学校総合文化祭出場

琴部部长 茶橋麻里枝

私たち琴部は、8月9日、福井県武生市で行われた全国総合文化祭に富山県代表として出場しました。この日のために何ヶ月も前から練習に励んできました。緊張の中、「心を一つに」を合い言葉にして、聴いている人たちに自分たちの思いが少しでも伝わればという思いを込めて、精一杯演奏しました。全国という大舞台で演奏できたことは、部員にとって最高の思い出となり、改めて、琴の奥深さ、魅力を知ることができたように思います。



文芸短歌部門 3年 中村唯子

8月9日・10日と、福井県の勝山市で行われた全国高校文化祭の短歌部門に、富山県代表として参加しました。大会では、全国から集められた多くの優れた文芸作品に触れ、大変勉強になりました。

また、レクリエーションなどを通して全国の高校生と交流することができ、めったにない体験ができたと思います。

十伏
回卒高
代 表
戸澤克行
(有)日光商事

十三伏
回卒高
代 表 取 締 役
高井逸朗
高建設(株)

十四伏
回卒高
代 表 取 締 役
上野宏芳
(株)ウエノ

十五伏
回卒高
代 表 取 締 役
中山勝儀
(株)フシキ住設

十六伏
回卒高
代 表 取 締 役
牧 亨
東光運輸(株)

十九伏
回卒高
代 表 取 締 役
山口正志
東洋通信工業(株)

二十七伏
回卒高
取 締 役
島田博司
島田工業(株)

二十七伏
回卒高
院 長
井上人士也
井上動物病院

韓国遠征に行っ
からの望遠鏡で
感じられず、あ
の世界が広がって
鮮に住む人々は、
ました。
ずつ対戦しまし
しまい、動きが
からは少しずつ
合で感じたこと
強い精神力を



がそれでも追いつけない自分を、恥ずかしく思いました。4日目はウル市に移動し試合をしました。この試合でようやく、遠征前の課であった「前線からの速いアプローチ」を実践することができました。この韓国遠征においてチームが得たものは、勝つことの喜びだと思いません。勝つことを前提にした戦いには必ず気持ちも乗るはずです。そして、その中で強くなれないと、全国ではもちろん、富山県でも勝てなと思いました。個人的には、本当に自分を大きくすることができました。1番大きくなったのは、技術面ではなく、精神面だったように思います。そして、異文化に触れ視野も広がり、人間的にも成長できました。このように貴重な体験ができた韓国遠征に参加できて、感謝しています。

ストック (2003, 9/27-10/4)

教諭 角谷 昭美

4日までの1週間、副校長を団長とする、(女子)生徒3名、引率教諭ストック訪問研修へ行って来ました。1週間の間、いずれ姉妹校にとらえているハーモニー校の授業に参加し、同校の「精力的にウラジオおう」というプログラムをこなし、同校のホストファミリー宅でお

の地の利を生かし、夏ア船訪問をしてロシア会話練習に励み、ロシア準備したつもりでしたと思いきや思いもかけないよりりました。

はたくましく、意欲的、ロシア人の友人を作った研修の機会を持つことと思います。



思い出話等) 皆様のご協力をたいと思っています。なお、お願いします。

利用下さい。
ousoukai@fushiki-h.tym.ed.jp

514 FAX0766-44-1707

編集後記

会報第9号をお届けします。

今回の寄稿欄には、岡山市在住の酒井氏をはじめ、卒業間もない同窓生、本校で教鞭を執っていただいた先生、また現役の先生と、多彩な方々から本校での懐かしい思い出の数々を語っていただきました。

ご寄稿いただいた方々に、感謝申し上げるとともに、皆さまからのお便りを、心よりお待ちしております。